

「紫ずきん2号」の収穫期の延伸に向けて

「紫ずきん」よりも早生で、ウイルス抵抗性を有する新品種「紫ずきん2号」は、既存の「紫ずきん」・「新丹波黒」と組み合わせることで、収穫期の分散に寄与できると期待されています。一方、これら3品種の黒大豆エダマメは『紫ずきん』として統一商標で出荷されるため、連続的な出荷が求められています。

そこで農業総合研究所では、「紫ずきん」の出荷開始時期である9月下旬まで「紫ずきん2号」の収穫期を延伸するために、5月下旬から7月中旬まで播種期を変えて「紫ずきん2号」を栽培し、収穫期や収穫に至るまでの日数の違いを把握するとともに、育苗期間中の長日処理が生育や収穫期に及ぼす影響を調査します。



播種期が異なる「紫ずきん2号」の生育状況。

左上が5月下旬に播種したもの。同様に6月上旬播種（右上）、6月中旬播種（左下）で、6月下旬播種のは右下に移植予定。